様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５３１０８０

研究課題名（和文）現代中国の少数民族における家族の変容と文化伝達に関する教育学的研究

研究課題名（英文）An educational study on the change of family and cultural succession among ethnic minority groups in China

研究代表者
小林　敦子（Kobayashi, Atsuko）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：９０１９５７６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、1980年代以降の社会変動下での中国少数民族の就学、移動、家族の変容を明らかにしながら、エスニック・マイノリティ家族における民族文化の伝承/断絶の実態を、教育学の観点から実証的に検証することにある。調査の結果から、（１）少数民族女性への近代学校教育の普及に伴って、農村から都市部に移住して近代的職業につく者も生まれているが、民族の伝統から遊離しつつあること、（２）他民族との通婚も生じ、こうした婚姻家庭においては民族の文化的継承が断絶している例も少なくないこと、（３）親の出稼ぎに伴い少数民族児童が寄宿舎生活を送ることで、家庭での文化継承が困難になっていること、以上が明らかにされた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to explore the reality of success or struggle of ethnic culture in ethnic minority families in China by analyzing the enrollment, migration, and transformation under social change after the 1980s.
The following conclusions were obtained from the study:(1) Many ethnic minority women work in distant cities with the spread of modern education. These women are free from the tradition of their ethnic culture.(2) Some of the ethnic minority women marry into other ethnic groups. It is very difficult for them to preserve their cultural legacy after marriage; there is a discontinuity of the woman's cultural inheritance in such a marriage.(3) Parents of many ethnic minority children work away from their hometown. Many children are separated from their parents and live alone in a school dormitory. The separation of a family and its effect on the child's education pose a serious sociological problem and can hinder the continuity of their own culture.

研究分野：社会教育、中国教育、中国少数民族教育

キーワード：エスニック・マイノリティ（少数民族）　中国　女性　家庭教育　文化の継承/断絶　近代学校教育　回族　教員

１．研究開始当初の背景

（１）1980 年代以降に本格化した改革開放政策以降、中国では市場経済化が進行し、とりわけ 2000 年の西部大開発によって内陸部に位置する少数民族地区の開発が一層促進された。また、近代化の基礎として学校教育が強力に国家政策として推進された結果、少数民族地域においても義務教育が普及した。そして、回族などイスラーム信仰といった宗教上の理由から、学校教育を忌避してきた少数民族家庭も、子女に公教育を受けさせることを自発的に選択するようになった。

（２）従来、少数民族地域では、女児の学校教育就学は極めて限定されたものであった。しかし未就学状況に置かれていた少数民族女児・女子青年も社会変動の影響を受け、学校教育において国家統一のカリキュラムの下で学び、学校卒業後に故郷を離れ就業・結婚する者が増加傾向にある。

（３）少数民族女性は学校教育を受けて来なかった反面、知識・道徳・風俗習慣・信仰といった文化の担い手として、家庭内において民族文化を次世代に継承する役割を付与され、期待されてきた。しかしながら、筆者の予備調査(2011 年、寧夏)からは、女性が近代学校教育を受けることによって共同体からの乖離が進み、婚姻家庭における少数民族固有の文化の伝承が困難になりつつあることが浮かび上がってきた。この事実は、少数民族のアイデンティティの揺らぎや民族の固有性の喪失といった問題も伴っており、民族存続の根幹に関わって大きな課題を投げかけている。

２．研究の目的

(１)本研究の目的は、グローバリゼーションという社会変動下での少数民族の就学、学校卒業後の就職、社会移動、家族の変容を明らかにしながら、エスニック・マイノリティ家族における民族文化の伝承/断絶といった実態を、教育学の観点から実証的に検証することにある。

(２)定量的調査及び定性的調査によって、出身家庭と、結婚後の婚姻家庭における家庭教育や民族文化の継承に関して比較検討する。また、調査の対象としては、回族、モンゴル族を中心とし、朝鮮族、チベット族、イ族などの少数民族も比較検討する。

（３）とりわけ本研究においては、近代教育を受けて来た少数民族女性教員に焦点を当てる。近代学校教育を受けることに伴う、就業、社会移動、婚姻家庭の変容の実態を検証し、出身家庭において学んだ民族文化の継承がどのようになされるのか、あるいはなされずに断絶しているのかを明らかにすることを、課題として設定する。

３．研究の方法

（１）調査の手法

①定量的調査;回族、モンゴル族、朝鮮族、族等の少数民族学生(小・中・高・大学)を対象とした、家庭状況、家庭教育(言語、道徳、価値観、民族意識、宗教、民族行事、家族行事)に関わる質問紙調査。

②定性的調査;各世代の少数民族女性、（ｉ）中華人民共和国建国前生まれ；60 代以上、（ii）建国から改革開放期以前生まれ；40 代～50 代、（iii）改革開放期以降生まれ；30 代以下、といった各年代層へのインタビューを通じてのライフストーリーの聞き取り調査を実施。出身家庭、受けてきた家庭教育、学校教育、学校卒業後の職場生活、結婚後の家庭生活、家族・子ども、婚姻家庭における家庭教育などについて調査。

（２）現地調査

①内モンゴル自治区におけるモンゴル族女性調査（アンケート、女性教員・中高校生対象、2012 年 3 月～4 月）

②雲南省での回族調査（インタビュー、女性教員対象、2012 年 8 月）

③湖北省における土家族地域調査（学校での参与観察、インタビュー、男女教員対象、2013 年 1 月）

④寧夏回族自治区における回族女性教員調査（インタビュー：1995 年以来の継続的な追跡調査の一貫、2013 年 4 月）

⑤呼和浩特民族師範及び二連浩特市等におけるモンゴル民族学校調査（学校での参与観察、アンケート、インタビュー、教員・大学生対象、2013 年 6 月）

⑥内蒙古包頭及び呼和浩特におけるモスク調査及び少数民族家庭（回族、3 世代）に対する聞き取り調査（2013 年 9 月）

⑦貴州省農村小中学校での調査（参与観察、インタビュー、ミャオ族教員対象、2014 年 3 月）

⑧四川省青川県、蒼渓県調査（参与観察、インタビュー、留守児童・教員対象、2014 年 6 月）

⑨四川省涼山イ族自治州調査（学校での参与観察、インタビュー、イ族・モソ族・チベット族の教員・家庭対象、2014 年 12 月）

４．研究成果

（１）少数民族女性に対する近代学校教育の普及とライフスタイルの変化

①少数民族女性への近代学校教育の普及に伴って、農村から都市部に移住して教師などの近代的職業につく者も生まれている。少数民族女性教員の調査によれば、都市部への移住に伴い、ライフスタイルも近代化

しつつある。たとえば、貧困の代名詞であった寧夏の黄土高原においても、自家用車で通勤する回族女性教員が登場している。20 年前には想像すらできなかったことである。

また、寧夏の黄土高原地域では、既婚女性はヴェールの代用品として帽子を被る習慣があったが、回族女性教員のほとんどは帽子を被らない。

②こうしたライフスタイルの変化は、1986 年の義務教育法の施行及び少数民族地域における学校教育の普及に伴って学校教育を受けるようになった、1980 年代以降生まれの女性教員に顕著である。

（２）結婚

①少数民族においては、（親の強い希望があり）同一民族間の結婚が多い。ただし、20 代から 30 代の回族女性教員の場合、自由恋愛による結婚が増加している。伝統的に回族家庭では、父母が娘の婚姻について決め、自由な恋愛による結婚は、認められなかったため、女性が専門職につくことで、婚姻においては新しい潮流が生じていることが指摘できる。

②従来、少数民族の場合、早婚が多かったが、少数民族女性教員の場合、漢族とほとんど変わらない。

③女性教員の場合、子どもが多ければ多いほど幸せといった伝統的な価値観から、少なく産んで優秀に育てるという考え方に、生育観が転換している。

（３）少数民族家庭における文化の継承

①同一の少数民族間の婚姻が多いとは言え、都市部においては、同じ民族の配偶者を捜すことが困難でもあり、他民族との通婚も生じている。こうした婚姻家庭においては、宗教的実践、食習慣などにおいて、民族の文化的継承が断絶している例も少なくない。

②婚姻に伴い、家庭における言語状況に変化が見られる。たとえ同一の少数民族であっても、普通学校（民族学校以外の学校、漢族学校）出身の配偶者と結婚した場合、婚姻家庭内で民族言語ではなく漢語で話す状況が生まれている。また、子どもが産まれ、子どもが普通学校に進学した場合、子どもの将来のために、家庭内においても民族言語ではなく、漢語で話すというケースも生じている。

③民族の文化伝統や道徳の規範意識は親子間で継承されている（モンゴル女性教員調査）。女性教員が自分の親から受けてきた家庭教育と、自分の子どもに対するそれは、１）礼儀正しく、道徳心をもつこと、２）年上を尊敬すること、以上の項目がともに高く、家庭教育を通じて、親から子へ道徳規範が伝達されている。

しかしながら、女性教師の出身家庭と女性教師自身の婚姻家庭を比べると、子どもの教育において、家庭での手伝いが重視されなくなっている。そのことで、労働、あるいは行事への参加を通じての文化継承がなされにくくなっている。

④普通学校出身の女性教員の場合、民族文化に対する理解度が低い。自身の婚姻家庭における家庭教育に関しても、民族文化の継承については消極的である。

（４）親の出稼ぎ・学校統廃合と留守児童

①親の出稼ぎに伴い少数民族児童が自宅を離れて寄宿舎生活を送るようになったことで、家庭における文化の継承が困難になっている。

②少数民族地域では、伝統的な行事のために多額の費用がかかり、それを維持するために、出稼ぎに行かざるを得ない状況が生まれている。しかし親の出稼ぎが、家族の解体につながっており、家族における文化の継承を困難にしているという側面がある。

③その一方で、民族学校において、民族音楽、民族体育行事を取り入れるなど、文化継承の努力が続けられている。

（５）国際フォーラムの開催

以上の研究成果に関して、以下の国際フォーラムを早稲田大学において主催して発表を行い、広く研究成果の周知に務めた。

①国際フォーラム「社会変動の下でのマイノリティと文化伝承―ライフストーリーの分析から―」（The International Forum Minority and Cultural Succession under Social Change: Based on an Analysis of Life stories）を主催（早稲田大学、2012 年 12 月 7 日～8 日、NIHU プログラム・現代中国地域研究との共同開催による）。海外研究協力者である鄭新蓉（北京師範大学）、魏曼華（北京師範大学）、張慧真（香港バプティスト大学）、李恩珠（韓国・明智短期大学）ら、ゲストを招へい。

②国際フォーラム「グローバリゼーションの下でのマイノリティ家族の変容と文化伝承」を主催（早稲田大学、2014 年 1 月 11 日～12 日、NIHU プログラム・現代中国地域研究との共同開催による）。鄭新蓉（北京師範大学）、魏曼華（北京師範大学）、呉暁蓉（四川大学）、ボロル（内蒙古財経大学）など、4 人の外国人研究者を招へい。回族、モンゴル族、チベット族に加えて、消滅の危機にある土族の言語文字状況が報告された。

③国際フォーラム「1920 年代～40 年代における中国回族―オーラルヒストリーに焦点を当てて―」（The International Forum The Hui in China from the 1920s to the 1940s:Focusing an Oral History）を主催（早稲田大学・国際会議場、2014 年 12 月 19 日）。内蒙古科学技術大学から朱海珅、

王継霞、妥佳寧 3 名の外国人研究者を招へい。

④国際フォーラム「近代学校教育の普及とマイノリティの文化継承/断絶―女性教師のライフストーリーの分析から―」（Dissemination of Modern School Education and Cultural Inheritance/Discontinuity :Analysis Based on Life stories of Women's Teacher、国際研討会　近代学校教育的普及和弱勢群体的文化伝承与断絶---基于女性教師訪談）を主催（早稲田大学、2015 年 1 月 31 日、NIHU プログラム・現代中国地域研究との共同開催による）。鄭新蓉（北京師範大学）、魏曼華（北京師範大学）、張莉莉（北京師範大学）、胡艶（北京師範大学）を招へい。

（６）研究成果の出版

研究成果の書籍での出版として『中国エスニック・マイノリティ家族の変容と文化伝承―ライフストーリーの分析から―』（新保敦子編、 2014 年 6 月出版、国際書院）がある。モンゴル族、回族、朝鮮族、土族の近代化と家族の変容、それに伴う文化の継承/断絶について、ライフストーリーに基づきながら分析した６本の論文（以下、①～⑥）と少数民族女性教師のライフストーリー2 本（以下⑦～⑧）を収録。具体的には以下の通り。

①サラントナラ「モンゴル人家庭における文化継承及び変容」
②新保敦子「近代学校の普及と少数民族家庭における文化の継承/断絶―モンゴル族及び回族の女性教師を中心として」
③孫暁英「中国における少数民族の言語学習に関する一考察―カザフ族へのインタビュー調査を事例として―」
④ボロル「青海省における土族言語文字の保護と継承」
⑤花井みわ「上海における朝鮮族の仕事・生活と民族文化継承」
⑥李恩珠「越境するマイノリティとアイデンティティ―韓国における脱北女性の分析から」
⑦莎「西江苗寨・苗族女性教師のライフヒストリー」
⑧丁輝「新疆に生きる―回族女性教師へのインタビューから」

（７）国際的ネットワークの形成及び海外での出版

①中国における研究成果の出版

研究成果の一つとして、国際的ネットワークの形成及び研究成果の出版をあげたい。国際フォーラムにおいて招聘した中国の研究者との共同研究が進展し、研究成果の一部を、中国における教育関係の出版社の代表格とも言える教育科学出版社から出版。魏曼華、鄭新蓉、新保敦子編著、『我的教師之路』、教育科学出版社（北京）、2014 年、224 頁。

②若手研究者の育成

日中両国における、若手研究者の育成も指摘しておきたい。早稲田大学で主催した国際フォーラムにおいては、若手研究者（日本人、中国人留学生）が適宜、発表を行った。

また海外研究協力者が所属する中国側大学（北京師範大学）においても、若手研究者、院生の協力を得ながら、女性教員、少数民族女性教師のライフストーリーの聞き書きによる研究が進展している。これは、ある意味、世代間の文化継承という作用も果たしている。

今後、本プロジェクトを継続的に推進する国際的ネットワークと研究体制が築かれている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　7　件）

①新保敦子、「中国農村部における子どもの貧困に関する一考察―留守児童の寄宿舎生活に焦点を当てて―」『学術研究』、査読無、63、2014 年、65-74 頁。

②小林（新保）敦子、他、「子どもの貧困と対抗戦略に関する教育学的研究―国際比較の視点から―」『早稲田教育評論』、査読有、2014 年、215-234 頁。
http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/41381/1/WasedaKyoikuHyoron_28_1_Kobayashi.pdf

③ Atsuko Shimbo 、Analysis of the education and social mobility:Based on study of the Hui Muslim family in China『学術研究』、査読無、62、2014 年、69-76 頁。

④新保敦子、「現代中国英語教育和教育差距：関于少数民族地区小学英語教育必修化」、『日本現代中国研究 2012』（日本人間文化研究機構、当代中国地区研究）、査読有、2012 年、183-196 頁。

⑤新保敦子、「公教育と多文化教育―近現代中国におけるエスニック・マイノリティに焦点を当てて―」、『日本の教育史学』、査読無、56、2013 年、131-136 頁。
http://ci.nii.ac.jp/els/110009662537.pdf?id=ART0010139267&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1433494637&cp=

⑥新保敦子、「中華民族意識の形成に関する一考察―教科書に描かれた領土およびエスニック・マイノリティの分析から―」『学術研究』、査読無、61、2012 年、31-52 頁。

⑦新保敦子、「日中友好運動の過去・現在・未来―高良真木のオーラルヒストリーに依拠して―」、『早稲田大学大学院教育学研

究科紀要』、査読有、23、2013 年、51-66 頁。
http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/39528/1/KyoikugakuKenkyukaKiyo_23_Shimbo.pdf

〔学会発表〕（計　11 件）

①新保敦子、「日本、中国、周縁エスニシティにおける対東アジア認識―三者の交錯の観点から―」、教育史学会第 58 回大会・コロキウム、2014 年 10 月 5 日、日本大学。

②新保敦子、「グローバル時代における言語教育による子どもの貧困の拡大 ―中国の農村部及び少数民族地域に焦点を当てて―」、日本学習社会学会第 11 回大会・課題研究、2014 年 9 月 7 日、早稲田大学。

③新保敦子、「近代学校教育の普及と中国におけるエスニック・マイノリティ」、国際フォーラム「グローバリゼーションの下でのマイノリティ家族の変容と文化伝承」、2014 年 1 月 12 日、早稲田大学。

④ Atsuko Shimbo 、「 Life Style Transformation and Cultural Tradition Associated with Modern School Education -With a focus on Hui Female Teachers in China- 」 Islam and Multi-culturalism Coexistence and Symbiosis、2013 年 12 月 20 日、Waseda Univ.

⑤新保敦子、「教育におけるジェンダー平等―中国ムスリムに焦点を当てて―」、日本社会教育学会大会第 60 回・ラウンドテーブル、2013 年 9 月 27 日、東京学芸大学。

⑥新保敦子、「蒙疆政権下伊斯蘭教徒工作与教育―以善隣回民女塾為中心」、内蒙古回族文化教育論壇、2013 年 9 月 9 日、内蒙古科学技術大学（中国、包頭）。

⑦ Atsuko Shimbo 、「 Analysis of the Education and Social Mobility :Based on Study of the Hui Muslim Family in China」、アジア・ムスリム研究所第 3 回国際ワークショップ“ Educating Muslim Minorities in Asia ” (3rd International Workshop of the Symbiosis of Muslims and Non-Muslims in Asia)（早稲田大学、2012 年 12 月 15 日、早稲田大学アジア・ムスリム研究所主催、トルコ及び台湾、韓国からパネリストを招へい）。

⑧新保敦子「移動する中国少数民族と文化伝達―現状と課題」、国際フォーラム「社会変動の下でのマイノリティと文化伝承―ライフストーリーの分析から―」、2012 年 12 月 8 日、早稲田大学。

⑨花井みわ　「朝鮮族の都市移動と文化伝承」、国際フォーラム「社会変動の下でのマイノリティと文化伝承―ライフストーリーの分析から―」、2012 年 12 月 7 日、早稲田大学。

⑩新保敦子、「公教育と多文化教育―近現代中国におけるエスニック・マイノリティに焦点を当てて―」、教育史学会第 56 回大会・シンポジウム、2012 年 9 月 22 日、お茶の水女子大学。

⑪新保敦子、「ジェンダーと国際教育開発(寧夏回族自治区における女子教育)」、日本比較教育学会第 48 回大会・ラウンドテーブル、2012 年 6 月 5 日、九州大学。

〔図書〕（計 14　　件）

（１）図書

①新保敦子「日本軍占領下の北京における少数民族と女子中等教育―実践女子中学に焦点を当てて―」、松本ますみ編、『1920 年代から 1930 年代中国周縁エスニシティの民族覚醒と教育に関する比較研究』（科研報告書、基盤 B・代表松本ますみ）、2015 年、60-73 頁。

②新保敦子「日本面対幸福高齢社会的挑戦」中華民国成人及終身教育学会、『終身学習実務与展望』、師大書苑、2014 年、255-270 頁。

③新保敦子編著、『中国エスニック・マイノリティの家族』、国際書院、2014 年、284 頁。

④魏曼華、鄭新蓉、新保敦子編著、『我的教師之路』、教育科学出版社（北京）、2014 年、224 頁。

⑤新保敦子「回族・朝鮮族における民族文化継承と学校教育」松本ますみ編、『中国・朝鮮族と回族の過去と現在』、創土社、2014 年、183-205 頁。

⑥ Atsuko Shimbo 、 Life Style Transformation and Cultural Tradition Associated with Modern School Education 、 *Islam and Multiculturalism Coexistence and Symbiosis* Organization for Islamic Area Studies、2013、pp.77-84。

⑦新保敦子「高齢者学習的現状与課題―従克服年齢層差距的視点対跨年齢層共存社会的嘗試」、中華民国成人及終身教育学会編、『終身学習行動策略』、台北師大書苑、2013 年、181-196 頁。

⑧新保敦子「女性の教育と就労」『中国経済史』、名古屋大学出版会、2013 年、289-290 頁。

⑨新保敦子　「現代中国における英語教育―小学校英語教育の現場から」『中国の初等中等教育の発展と変革』、独立行政法人科学技術振興機構 中国総合研究交流センター、2013 年、244-246 頁。

⑩新保敦子「東アジアにおける傾向と課題―グローバリゼーションと少数民族女子青年をめぐって」菅野琴・長岡智寿子・西村幹子編、『ジェンダーと国際教育開発―課題と挑戦―』、福村出版、2012 年、80-94 頁。

（２）その他の報告書

①新保敦子編著、『国際フォーラム報告書 近代学校教育の普及とマイノリティの文化継承・断絶―女性教師のライフストーリーの分析から―』、2015 年、95 頁。

②新保敦子編著、『国際フォーラム報告書 1920 年代～40 年代における中国回族―オーラルヒストリーに焦点を当てて―』、2015 年、79 頁。

③新保敦子編著、『子どもの貧困と対抗戦略に関する国際比較研究　中間報告書』、2013 年、156 頁。

④新保敦子『国際フォーラム報告書　社会変動の下でのマイノリティと文化伝承―ライフストーリーの分析から―』、2013 年、150 頁。

〔その他〕

①東洋文庫総合アジア圏域研究班による国際シンポ（2015 年 2 月 28 日～3 月 1 日、東洋文庫開催）の Session１のコーディネーター。“Islamic and Chinese Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Supra-Regional Spheres of Islamic and Chinese Regions”、Session 1 （Some Aspects of Chinese Muslim Society: Focusing on Migration, Network, and Gender ）。WANG Jianxin(Professor, Lanzhou University)、Maria JASCHOK (Director, International Gender Studies Centre , University of Oxford)、MATSUMOTO Masumi(Professor, Muroran Institute of Techology)、以上 3 名を招聘。

②「国際シンポジウム：20 世紀初、中国周縁エスニシティの覚醒に関する比較研究―メディア、移動、政策―」（2014 年 12 月 20 日、早稲田大学・国際会議場、基盤研究（B）・1920 年代～1930 年代中国周縁エスニシティの民族覚醒と教育に関する比較研究＜研究代表者・松本ますみ＞）のパネルディスカッションにおけるコメンテーター

６．研究組織

(１)研究代表者

小林（新保）敦子

（KOBAYASHI SHIMBO ATSUKO ）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：90195769

(２)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(３)連携研究者

花井みわ

（HANAI MIWA ）

早稲田大学兼任講師

研究者番号： 70578476

(４)海外の研究協力者

①鄭新蓉（北京師範大学教授、多文化教育、ジェンダー論）

②魏曼華（北京師範大学副教授、多文化教育、教師教育）

③武宇林（北方民族大学教授、回族など少数民族女性の家族・文化論）

④呉暁蓉(四川大学教授、チベット族、モソ族など四川省における少数民族の多文化教育)

⑤李恩珠（韓国・明知短期大学客員教授、朝鮮族女性教育）

⑥ボロル（内蒙古財経大学副教授、土族教育研究）

（５）海外の研究協力機関

北京師範大学多元文化教育研究中心